



TITLE:

北京師範大学との学術交流: 国際教育研究フロンティアD 2011(共同大学集中講義)

AUTHOR(S):

王, 雯

CITATION:

王, 雯. 北京師範大学との学術交流: 国際教育研究フロンティアD 2011(共同大学集中講義). 子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして 2012, 活動報告書(2007-2011年度): 135-135

ISSUE DATE:

2012-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179677>

RIGHT:

国際教育研究フロンティアD 2011（共同大学集中講義）

1. 北京師範大学との学術交流協定による集中講義

2011年12月25日から27日まで、クリスマスの雰囲気を漂う京都で、北京師範大学比較教育研究センター副教授の高益民先生をお迎えして、国際教育研究フロンティアD（集中講義）が開催された。本事業は北京師範大学教育学部と京都大学大学院教育学研究科の協定にもとづいて、交代（隔年）で開催される教員相互訪問による授業の一環であり、教育実践コラボレーション・センターの主催で行なわれた。師走の忙しい季節に、三日間の集中講義をしてくださった高先生、及び連絡と調整をしてくださった南部教授と吉田助教授に深く感謝を申し上げたい。受講生が少人数のゼミであり、活発な議論ができ、高先生は一人ひとりの問題感に熱心に答えてくださり、実りの多い三日間を過ごした。

2. 高益民先生による集中講義

高先生からは、「格差社会における子どもと教育格差」をテーマとして、中国と日本の高等教育の現状、およびその背後の問題点を比較しながら、わかりやすく解説がなされた。講義では、まず「格差と公平」、「公平と平等」の関係に関して、なぜ格差がネガティブなイメージをもっているか、公平と平等が両立できないか、社会主義における悪平等ということが説明され、格差の存在の必然性が指摘された。

続いて、「社会階層からみる格差の変化」について、特に中華人民共和国が成立して以来の、中国社会の階層の激変とともに、国民の職業と教育の変化が論じられた。改革開放や教育改革を経ても、親の職業の階層が子どもの教育、さらに子どもの職業に極めて大きな影響を与えており、いわゆる「文化資本」の存在が教育格差を生じる主な原因の一つであることが説明された。

最後に、都市部と農村部における具体的な深刻な教育問題、地方政府の財政の窮乏、学校選択などの現状の課題が論じられた。その中で、中国の都市部における出稼ぎ者の子どもの悲惨な生活、学歴社会で生き残るために必死に頑張る親たちの事例は、改めて中国が直面する深刻な問題を考えさせられた。

三日目には高先生と食事会もでき、楽しい雰囲気、日中の大学の生活などのお話ができ、また、交流活動において、真面目な日本人と柔軟性を持つ中国人との間で、物事の考え方の違いによって、ミスが生じたお話などをうかがった。

3. 今後の交流の発展に向けて

この三日間の集中講義は、教育分野に存在する様々な「格差」が主な内容となっているが、まだ中国の教育を全面的に理解するものではなく、ややネガティブな授業内容であると高先生は述べられた。「平等」を実現するのは難しいかもしれないが、それでも人々は常に「平等」を追求し、「格差」に対して批判的な態度になりがちである。しかしながら、教育格差が存在する合理性を正しく認識すること、教育格差の拡大をふせぐことは、これからも重要な課題であると指摘された。

北京師範大学と京都大学との教員間の緊密な繋がりが、日本にいながらも中国の大学教員の講義を受けることができるだけでなく、私たち日本の学生と中国の学生との、豊富な交流活動の源になっている。これからも、今回のように結んだ縁を大切に、2つの大学の学術交流に力を注いで、さらにこの機会を両国の教育を高めあうことに役立てたい。

（文責：王 雯）